

令和6(2024)年度 単年度計画

鳥取空港の運営等に関する計画

- 1 将来イメージ・基本コンセプト
- 2 空港活性化に関する計画
- 3 地域連携事業に関する計画
- 4 施設の利用に係る料金に関する計画
- 5 安全・安心の確保に関する計画
- 6 滑走路等の更新投資に関する費用負担の計画
- 7 事業実施体制
- 8 収支計画

令和6年5月1日 (ver. 3.0)

鳥取空港ビル株式会社

はじめに

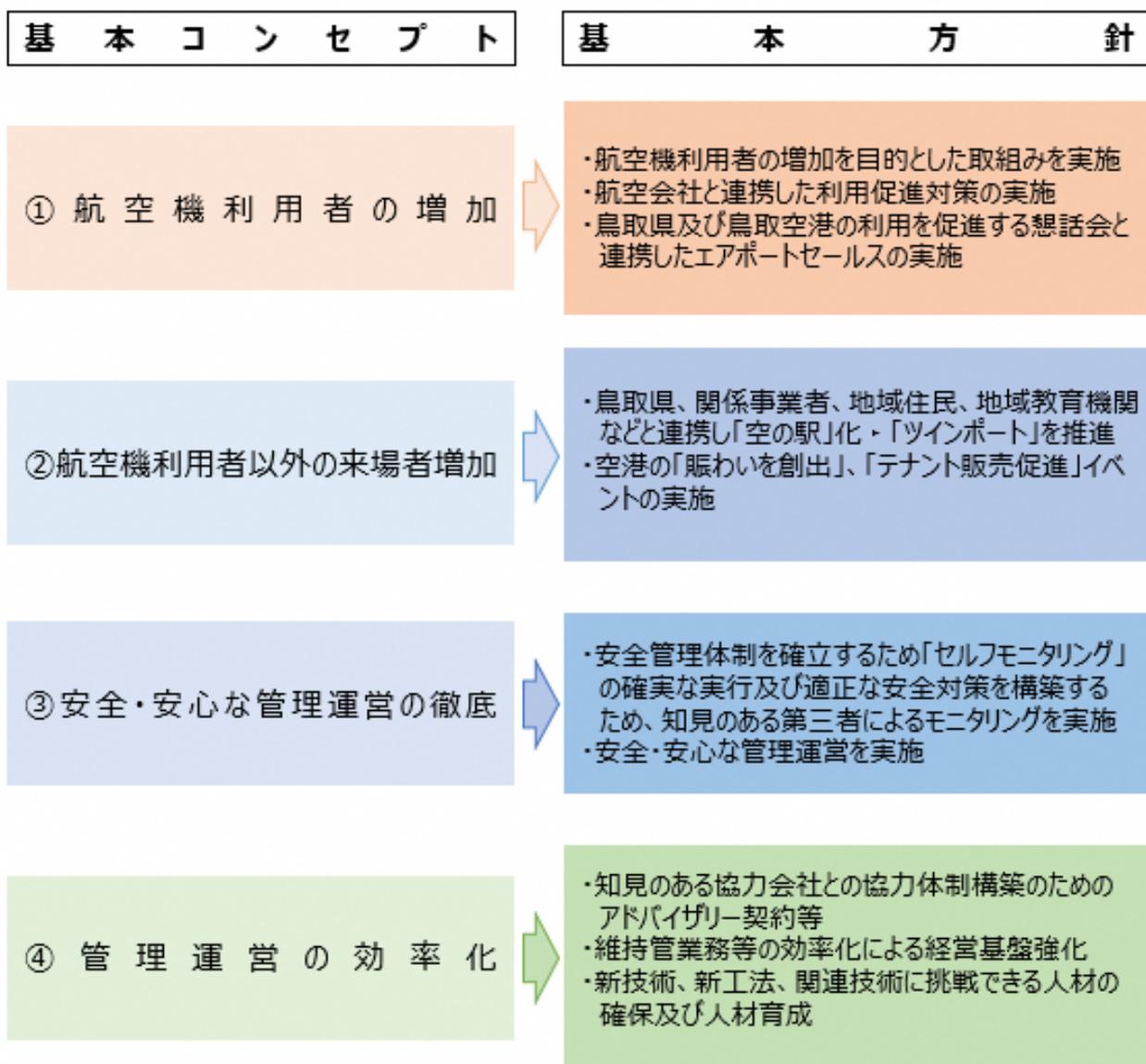
「鳥取県営鳥取空港特定運営事業 令和6（2024）年度 単年度計画」策定に当たり、中間評価委員会の答申を踏まえて、空港の活性化、地域活性化への貢献、これらに伴う収入増、経費削減などの改善を図り、より良い空港運営を目指した単年度計画を策定します。

1. 将来イメージ・基本コンセプト

(1) 将来イメージ

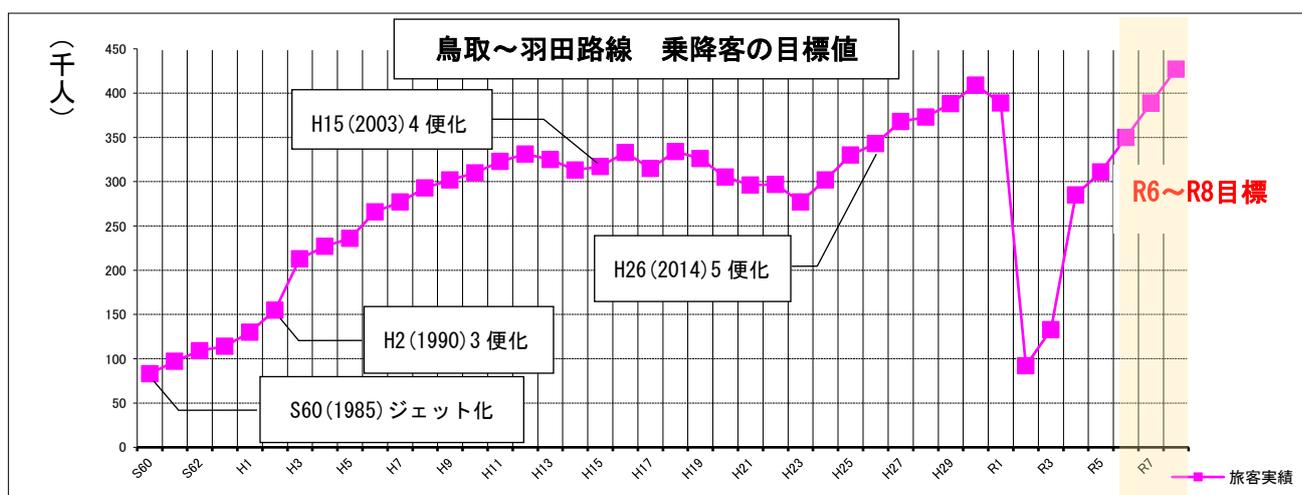
- ◎航空路線維持と旅客増加
- ◎航空機利用者以外の空港利用促進
- ◎商業施設の充実で華やぐ鳥取空港

(2) 基本コンセプトと基本方針



2. 空港活性化に関する計画

国内線定期利用者数（以下「航空機利用者数」という。）および空港来場者数は、令和元（2019）年度まで順調に増加していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大によって令和2（2020）年度は大幅に減少しました。その後、感染者は縮小拡大を繰り返し、その影響は令和3（2021）年度から継続していましたが、令和4（2022）年度後半の第8波以降、徐々に収束に向かい令和4（2022）年度の航空機利用者数は、目標としていた感染の影響が顕著化していなかった令和元（2019）年度実績の70%（272千人）を上回り、285千人となりました。そして、令和5（2023）年度の航空機利用者数は、目標としていた令和元（2019）年度実績の80%（311千人）を上回る374千人となり、令和元（2019）年度実績の96%まで回復しました。令和6（2024）年度は令和元（2019）年度実績の100%（389千人）を目標に設定して、航空機利用者増加を第一に、地域の賑わい拠点としての活動を継続します。



(1) 当社の目標値（令和4（2022）年度 → 令和8（2026）年度）

年度		2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
①国内線 定期便利 利用者数	目標	400千人	418千人	290千人	272千人	311千人	389千人 以上	408千人 以上	428千人 以上
	実績	389千人	92千人	133千人	285千人	374千人	—	—	—
②航空機 以外の利 用者数	目標	400千人	418千人	295千人	408千人	466千人	584千人 以上	612千人 以上	642千人 以上
	実績	404千人	175千人	241千人	393千人	423千人	—	—	—
合計	目標	800千人	836千人	585千人	680千人	777千人	973千人 以上	1,020千人 以上	1,070千人 以上
	実績	793千人	267千人	374千人	678千人	797千人	—	—	—

※R 6～R 8航空機利用者数はR 5実績を勘案して上方修正

①航空機利用者数（国内線 鳥取－羽田線 定期便5便就航）

令和元（2019）年度実績値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響なし。

令和2（2020）年度実績値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、目標値を大幅に下回った。

令和3（2021）年度実績値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響によって、目標値を下回った。

令和4（2022）年度実績値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響が無かった令和元（2019）年度実績の70%の回復（272千人）を目標値と設定。
目標値を13千人上回り285千人の実績値を達成。

令和5（2023）年度実績値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響が無かった令和元（2019）年度実績の80%の回復（311千人）を目標値に設定。
目標値を63千人上回り374千人の実績値を達成。

令和6（2024）年度目標値・・・新型コロナウイルス感染拡大の影響が無かった令和元（2019）年度実績の100%の（389千人）を目標値に設定。

令和7（2025）年度目標値・・・前年度目標値の105%（408千人）を目標値に設定。

令和8（2026）年度目標値・・・前年度目標値の105%（428千人）を目標値に設定。

②航空機以外の利用者数（来場者数）

- ・令和6（2024）年度～令和8（2026）年度・・・航空機利用者数1:1.5の来場者数を目指す。
- ・空港の賑わいを創出しテナントの販売促進等に繋がる将来を見据えたイベント等を実施することで、目標値を乗降客数の1.5倍とする。
- ・館内コナン装飾のPRを行い、コナンを有効活用した集客を目指す。

航空機以外の利用者数目標

令和6(2024)年度目標 航空機利用者数 389千人×1.5=584千人

(2) 目標値を達成するための基本方針・施策等

①航空機利用者の目標達成のための施策

a) 航空機（東京便）の利用者増加に向けた取組

- ・「羽田発着枠政策コンテスト」に運営権者として積極的に参画し5便化の継続を図る。
- ・首都圏からのワーケーション旅客の増加、企業の副業人材の活用による交流人流の増加を図る。
- ・ANA山陰支店との連携によって搭乗者に特典を付与する「キャンペーン」の実施。
- ・鳥取空港サポートクラブを活用し、東京便の利用者に特典を付与。

b) 国際チャーター便の誘致

鳥取県（以下「県」という。）、鳥取空港の利用を促進する懇話会（以下「懇話会」という。）と連携し、情報収集・発信、受入体制整備、おもてなし向上によって誘致を促進。

c) 空港周辺の二次交通改善（空港アクセス改善）

- ・令和4（2022）年度に立ち上げた「鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム」会議によって幅広く多様な利用の視点から実態調査を行って策定した「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」に基づき、各作業部会によって着実に出口戦略1（情報）、出口戦略2（移動）、出口戦略3（活動）を推進する。
- ・空港と周辺地域・観光地等を結ぶ二次交通の改善を図るとともに、インバウンド観光振興、ワーケーション推進と住民生活維持の「融合」を目指した公共交通網の点検・再構築に努める。

鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業

■ 出口戦略1（情報）

- ・鳥取版「旅CUBE」for ANAの構築



画像出典：ANA 公式HP ご利用ガイド「旅CUBE」紹介

ANAの移動サービス（MaaS）プラットフォーム「旅CUBE」を活用し、鳥取版「旅CUBE」for ANAを構築する。

- ・鳥取県内各種交通の取扱い
- ・クーポンや観光チケットの取扱い
- ・情報検索や事前購入
- ・キャッシュレス対応 など

■ 出口戦略2（移動）

- ・携帯GPSデータを活用した人流分析（ビッグデータ・AI活用）

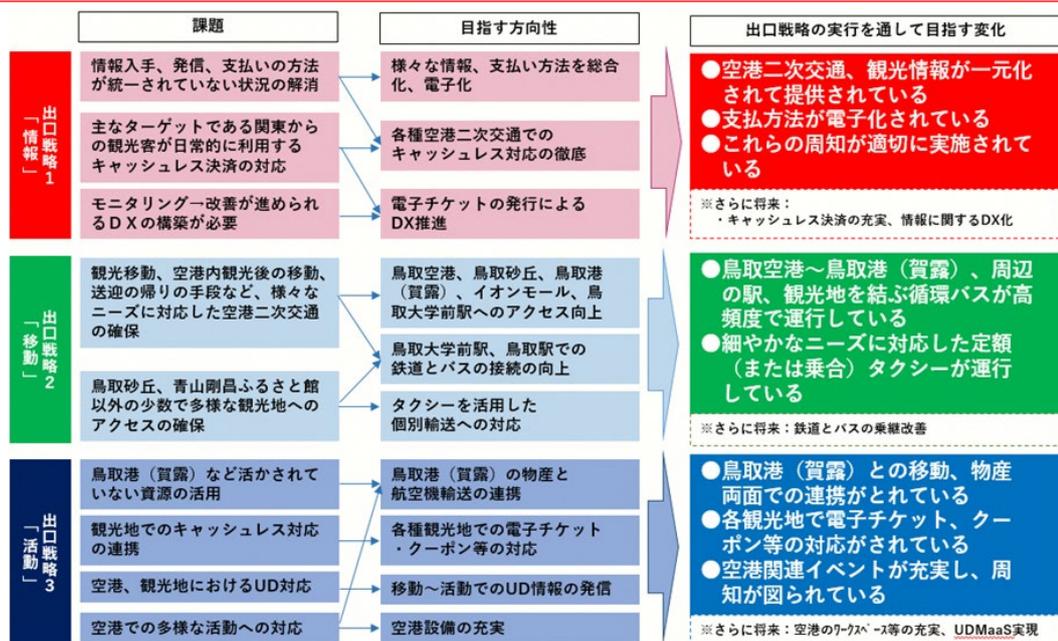
現在進めている携帯GPSデータを活用した分析を更に深め、二次交通の充実にに向けた実証実験に繋げる。

■ 出口戦略3（活動）

- ・ツインポート物産連携

「マリニピア賀露」と連携した物産販売（実証実験）などを実施する。

**鳥取砂丘コナン空港と周辺観光地等を結ぶ二次交通改善活動プラットフォーム 資料
空港二次交通の課題と目指す変化**



- d) ANA、ANAグループ会社との連携による国内外の航空機利用の促進
 - ・前述の出口戦略であるANAの移動サービスプラットフォーム「旅CUBE」を活用し、MaaS（地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせることで検索、予約、決済等を一括で行うサービス）の構築を目指す。
- e) 東京便5便化継続とさらなる搭乗率の向上
 - ・「県」「懇話会」と連携したエアポートセールスの実施
- f) インバウンド需要の増加に備えた準備（国際チャーター便の誘致）
 - ・「県」「懇話会」と連携し、情報収集・発信、受け入れ態勢の整備、おもてなし向上によって誘致を促進する。
 - ・CIQ施設の整備検討
 - ・国際チャーター便の就航に関する地方空港等受入環境整備に向け、鳥取空港内に令和4年12月に立ち上げた「ワーキング・グループ」で、グランドハンドリング体制の維持支援および国際線施設（換気対策、検査スペース等）の受入体制の課題を検討する。
 - ・透明文字表示ディスプレイ「レルクリア」と翻訳アプリを利用し、訪日客に対するインフォメーションや保安検査場での案内業務の強化を図る。

鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業

■ 空港利便性向上に向けた多様な受入体制検討業務

前述の鳥取空港内部関係者による「CIQ施設の整備検討」等の取組に加え、新たな視点として外部（航空会社、国土交通省航空局、CIQ5官署（税関、出入国管理、人検疫、動物検疫、植物検疫）等）の専門的な知見を活用し、空港利便性向上に向けた情報収集・分析および検討を行い、効果的・効率的で多様な受入体制整備の方策を取りまとめる。

- g) 航空保安業務や基本施設管理の効率化
 - ・空港管理に関する情報の一元化管理による効果的かつ効率的な空港運営や施設管理を目指す。
 - ・空港二次交通、空港脱炭素化および地域活性化などへの活用を目指す。

② 航空機の利用促進の具体的な取組

取 組	内 容
ANA東京便搭乗率向上キャンペーン	ANAと協力・連携して利用者増加を目指す。
モニタリングツアーの企画（地域DMOと連携したワーケーション体験ツアーなど）	移住、定住、ワーケーションなどのモニタリングツアーを企画し羽田からのアクセスの良さを体感して頂く。 空港でのリモートワーク体験など
県立ハローワークの副業人材事業を活用	東京大手百貨店の社員と副業契約を結び、専門家のノウハウを吸収しながら新たな賑わいを創出する。
国際チャーター便の誘致活動	国際観光課と連携したエアポートセールス展開する。
国際チャーター便旅客のリピーター獲得	おもてなし実施「空の駅女子会」と連携する。

③航空機利用者以外の目標を達成するための施策

空港の賑わい創出やテナントの販売促進のため、民間のアイデアによって多彩なイベントやテナントの充実を図り、特に外部から呼び込むイベントを充実させるなど、持続的に航空機利用以外の空港利用促進を図る。

a) 鳥取砂丘コナン空港の「空の駅」化・「ツインポート」の推進

- ・リニューアルした「鳥取エアポートマルシェきんさい屋」を活用して地域の魅力を発信できる商品構成や、新規メニューの開拓を進め、「空の駅」化の推進、収入増による経営基盤の安定を目指す。
- ・県の地域振興、観光交流部局等と連携した「観光・地域振興」による新規需要開拓策
- ・鳥取砂丘コナン空港 「空の駅・ツインポート推進チーム会議」への参画
- ・多彩な空港イベントの開催による集客
- ・イベント等に合わせた臨時出店を促進（バザーや出店）
- ・ツインポート（鳥取空港、鳥取港）連携イベントの開催による集客
- ・物販、飲食店舗の共同販売促進の実施
- ・ホームページやSNSを活用した情報発信
- ・デジタルサイネージを活用したツインポートPR事業

b) 空港テレワーク用ブース設置によるスペース活用実験

- ・ターミナルビルロビーにテレワーク用ブースを設置
- ・利用状況を把握しワーケーションスペースなどの活用の可能性を調査

④航空機利用以外の空港利用促進の具体的な取組

a) テナントと連携した販売促進を支援するイベント

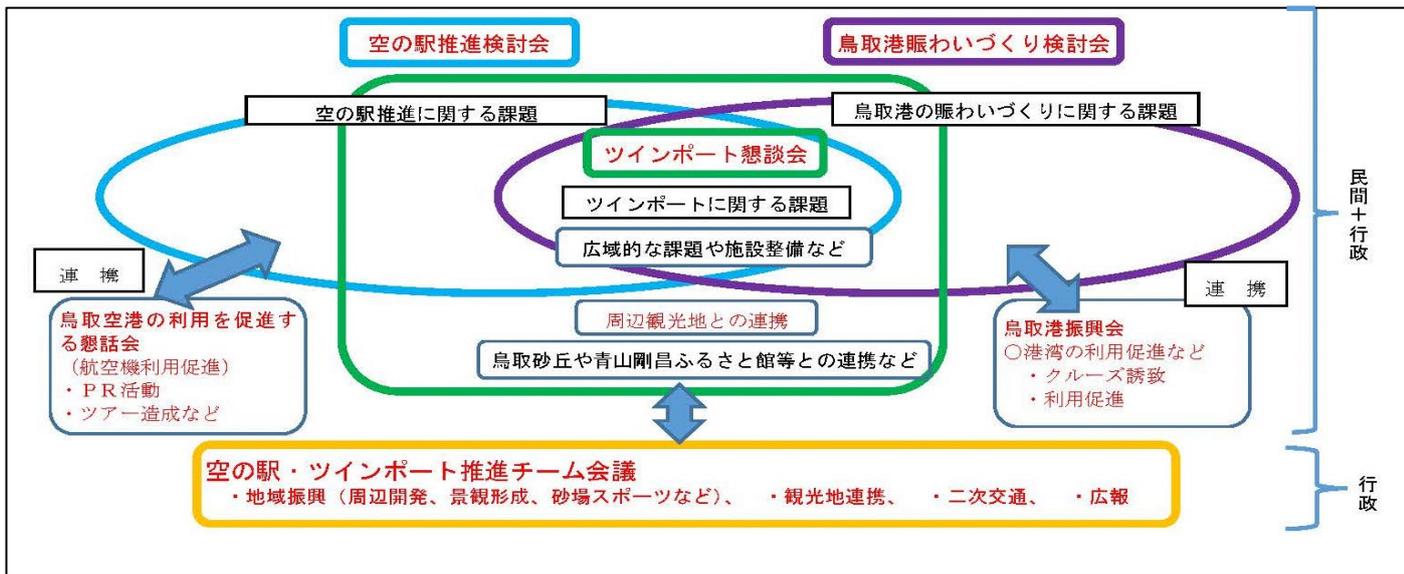
イベント名	開催予定	内容（案）
三ツ星マーケットフェア	年3回	山陰三ツ星マーケット出店、ステージイベント等
サマーフェスタ 2024	7月	リニューアルから6周年の記念イベント
秋のうまいものフェア	10月	秋の食材を使用したテナント限定メニューや地元の人気ショップ出店など
鳥取空港バレンタインフェア	2月	テナント店舗によるバレンタイン特別メニューや、限定商品の販売、人気スイーツ店の出店
春休みフェア（ツインポート）	3月	空港内テナントと「わったいな」との連携イベント

b) 空港の賑わいづくり、地域との連携によるイベント

イベント名	開催	内容
みんなのピアノ発表会	4月	空港ピアノを利用したステージイベント
滑走路早朝マラソン 2024	7月	鳥取空港の滑走路 2,000m を往復するマラソン大会
空港フェスタ 2024	9月	毎年恒例の空の日イベント。飛行機離発着の見学など
学会レセプション誘致	9月	コナンホール活用
クラシック音楽ライブ	5、9月	「百万人のクラシックライブ」空の駅おやじの会
空港フォトコンテスト 2024	10月	空港の写真を募集
空港わくわく探検ツアー	10月	空港内を探検するツアー。航空会社スタッフの働く姿や空港消防車・防災ヘリコプターなど見学

かにフェスタ連携イベント (ツインポート)	11月	賀露「かにフェスタ」と連携、親ガニみそ汁の無料配布やガラポンなどのイベントを実施
ツインポート関連イベント	11月	かにつこ空港ロードを利用したウォーキングイベント
受験生合格祈願イベント	1月	ANA合格祈願絵馬設置
しゃんしゃん体操教室	毎週	
地元小学校との連携イベント	随時	作品展示など
空港ナイトクルーズ&星空観察会	随時	空港ナイトクルーズと星空観察
鳥商デパートとの連携イベント	未定	鳥取商業高校と連携
鳥取砂丘コナン空港愛称化10周年記念イベント	未定	県が実施するコナンホールの巨大トリックアートリニューアルのお披露目式に合わせて実施（県と調整）

(参考) ツインポート関連の検討会など



(3) 県が推進しているツインポート関連の検討会等への参画

- ① 県、関係事業者、地域住民、地域の幼稚園・保育園・小中学校、高校、大学との連携
- ② 「空の駅」化・「ツインポート」の推進
「わったいな」や「かろいち」などと連携したツインポートイベントの開催など
- ③ 自治体が実施する観光振興、地域活性化策との連携
- ④ 鳥取、山陰の情報発信機能強化
- ⑤ 鳥取空港情報「来んさいNavi」による情報発信
- ⑥ 地元商工会と連携し、「チャレンジショップ」等の手法により地域物産品の販売コーナーを展開
- ⑦ 体験型イベント、ワークショップ、フリーマーケットなどの開催
- ⑧ テナント（物販・飲食店）との共催イベント開催
- ⑨ 「鳥取エアポート free Wi-Fi」を活用したニーズ調査→サービス向上
- ⑩ 空港コンサートなど音楽イベントの開催
- ⑪ ターミナル周辺に地域の特産物を植栽し来訪者へのおもてなしやイベントに活用
- ⑫ イベント用ネット回線を利用したオンラインイベントの開催

(4) 目標達成状況の確認方法

- ①乗降客数および来場者計測システムを活用し、目標の達成状況を確認
- ②イベント効果を検証するため、来場者計測システムを活用し、テナント売上状況との関連性を検証
(更なる集客と販売促進を図る)
- ③空港利用者の満足度を把握するため、定期的にアンケートを実施

3. 地域連携事業に関する計画

(1) 地域連携事業の基本方針

鳥取砂丘コナン空港では、以前から賑わいづくりや消防活動等、地域の方々や関連団体と連携した事業を行っており、従来の取組に加え更なる連携を進めます。

(2) 空港内で行っている地域連携事業

①航空機利用者の増加

- ・東京便5便化継続とさらなる搭乗率の向上のためのキャンペーンへの参加
- ・懇話会と協力し、利用者への記念品配布等を実施
- ・安定した国際チャーター便の就航
チャーター便到着時に懇話会、空の駅女子会等と連携した、おもてなしの実施

②多様な来訪者による賑わいの創出

- ・空港内事業所が行っているCS活動イベントに、保育園児、幼稚園児の参加
- ・小学校、中学校、高校生対象の空港での校外学習、大学生による演奏会の実施など

③安全・安心な管理運営の徹底

- ・地域の消防団と湖山消防署、空港消防が連携した消防訓練の実施
- ・鳥取空港消火救難訓練における看護学生の参加など
- ・災害発生時の迅速な初動体制の確立と復旧に向けて、県民、地域の関連企業および団体などとの連携を強化する仕組みを構築
- ・訓練で出た課題などの改善

(3) 具体的な地域連携事業の取組

- ・地元消防団と連携した災害対策訓練
- ・湖山西小学校との連携「コニシギャラリー」、「ひまわりプロジェクト」



4. 施設の利用に係る料金に関する計画

【基本方針】

本事業による収益確保は重要であり、収益によって更なる空港活性化が促進されるなど、好循環が期待できます。空港基本施設およびターミナル施設など、利用料、貸付料、設置料など、料金設定が可能と判断されるものに関しては、関係法令に基づく手続きに従い、価格を設定し、民間事業者として柔軟かつ多様な設定によって可能な限り収入増を図ります。

【利用料金の設定】

- (1) 着陸料 : 鳥取空港供用規程に準ずる。
- (2) 停留料 : 鳥取空港供用規程に準ずる。
- (3) 土地使用料 : 1平方メートル当たり 1,241円/年
- (4) 航空機への乗降に係る施設（国際線側）

区分	単位	金額	備考
出発時	1時間	9,400円	
到着時	1時間	11,400円	
PBB設備、コンコース使用料	1時間	2,900円	PBB設備使用料 1,023円/時間

※消費税および地方消費税別

(5) テナント貸付料

- ①賃料 : 固定方式と歩合方式（店舗毎に売上基準額を設定し、設定額を上回った場合に徴収する方式）を組み合わせ、入居者が経営継続可能な設定とし、コンセッション導入によるVFM（Value For Money）が発生する貸付料とする。
- ②管理費 : 店舗施設・設備などの維持管理に必要な管理コストを徴収する。
- ③設備使用料 : 当社が設置した店舗施設・設備などの使用料金を徴収する。
- ④直接費 : 入居者が使用する電気・水道代等を徴収する。

(6) 広告収入

広告として、壁面看板、デジタルサイネージ、ポスター、パンフレット、ショーケース、車両などを設置する場合、広告掲出料金を徴収する。広告掲出料金は掲出面積や展示場所、形態、サイズ、放映時間等によって適切な料金を設定する。

(7) 会議室・特別待合室

区分	場所	単位	金額	備考	
①国内特別待合室（約35㎡）	国内	1時間	5,000円	ただし、使用時間が1時間を超えた場合は30分毎に1時間分の使用料金の半額を加算する。	
②国際特別待合室（約59㎡）	国際	応接仕様 全室	1時間		5,000円
		応接仕様 半室	1時間		2,500円
		会議室仕様 全室	1時間		2,000円

	会議室 仕様	半室		1時間	1,000円	
	その他	全室		1時間	2,000円	
	その他	半室		1時間	1,000円	
③国内貸会議室 (約 27 m ²)		国内		1時間	2,000円	

※消費税および地方消費税別

(8) 建物、その他の施設使用料 (テナント以外)

区分	面積	単価	備考
1時間単位	1平方メートル	10円	
1日単位	〃	150円	10円×15時間

※消費税および地方消費税別

(9) 貸倉庫等

区分	単位	金額	場所	備考
貸倉庫1	1日/1ヶ月	150円/4,500円	中央棟1階階段下	
貸倉庫2	1日/1ヶ月	150円/4,500円	中央棟1階	
貸倉庫3	1日/1ヶ月	270円/8,100円	国際1階東側階段下	
貸ロッカー	1ヶ月	1,000円/人	国際階段下	

※消費税および地方消費税別

(10) 職員等駐車場使用料

1区画当たり 2,500円/月 (但し、利用者の勤務形態等を考慮し減免することができる。)

区分	減免率
早朝、夜間、休日等の勤務が月10日以上ある職員等	1/2
早朝、夜間、休日等の勤務が月5日以上ある職員等	1/4

※消費税および地方消費税込

(11) 備品使用料

区分	品名	料金 (1回当たり)	保有数
備品	会議用長テーブル	100円	8
備品	大型丸テーブル	100円	14
備品	演台、花台	100円	1
備品	イス	100円	132
備品	ポスターパネル	100円	2
備品	小型ショーケース	200円	1
備品	展示ボード大 (7台)、展示ボード小 (6台)	200円	13
備品	パーティションボード	200円	20
備品	サイネージモニター (55インチ HDMI)	410円	1
備品	テレビチューナー付モニター (70インチ HDMI)	500円	2

備品	ミニ拡声器 2 台、ミニ拡声器 (ハンズフリータイプ) 1 台	100 円	2
設備	コンホール放送設備一式 (アンプ・スピーカー・マイクなど)	1,000 円	1

※消費税および地方消費税別

(12) 建物、その他施設にアンテナ等機器を設置した場合の使用料

該当しない機器については、大きさや重量を考慮し料金を設定する。

区分	個数	単価	備考
壁面、天井面設置 1ヶ月	1個	1,500円	重量10kg以下、四方0.2m以内
親機設備 1ヶ月	1個	5,000円	1平方メートル以内

※消費税および地方消費税別

設置機器の電気料金は、消費電力より 25 円/kWh で算出し徴収する。

電気料金算出式

$$1 \text{ 日分の電気料金} = \text{消費電力} \times 25 \text{ 円 (電気料金単価)} \times 24 \text{ h (時間)}$$

$$1 \text{ 年分の電気料金} = 1 \text{ 日分の電気料金} \times 365 \text{ 日 (日数)} \text{ (1 年を 365 日とする。)}$$

$$1 \text{ ヶ月分の電気料金} = 1 \text{ 年分の電気料金} \div 12 \text{ カ月 (月数)}$$

- ※1 使用面積が 1 平方メートル未満であるとき、または面積に 1 平方メートル未満の端数があるときは、1 平方メートルとして計算する。
- ※2 時間単位で使用する場合は、使用時間が 1 時間未満であるとき、または時間に 1 時間未満の端数があるときは、1 時間として計算するものとする。
- ※3 航空機を利用する団体旅行および修学旅行などの出発式、解散式などは届出により無償とする。
- ※4 営業行為に類するイベントの開催については、主催者側に企画書の提出を求め、開催の可否について個別に判断する。
- ※5 ※4 の営業イベントを開催する場合、建物、施設使用料金のほかに売上額の 10% または売上基準額を設定し基準額を超えた額の 10%、もしくはその金額に相当する額を加算する。
- ※6 コンホールなどを使用したイベントで、設備等の操作や搬入・搬出等によって立会・調整業務などが発生する場合は、使用料のほかに管理料として 18,000 円/日 (税別) を徴収する。またスポットライトやコンセントを使用する場合は 1,000 円/日 (税別) を加算する。
- ※7 ロビーなどでコンセントを使用する場合は 1 箇所当たり 500 円/日 (税別) を徴収する。
- ※8 鳥取空港ビル(株)が主催または共催するイベントは、「(8)建物、その他の施設使用料 (テナント以外)」および「(11)備品使用料」の適用を除外する場合がある。

5. 安全・安心の確保に関する計画

(1) 安全管理体制の確立と安全・安心な管理運営

関係法令、鳥取空港機能管理規程や関連する基準などを遵守し、適切な管理運営を行います。

①空港の管理運営

鳥取空港機能管理規程を遵守し、安全・安心な管理運営を行います。

鳥取空港における安全運用を確保するため、安全管理マニュアルを遵守し、空港内の関係機関と密接な連絡・協力体制を構築、維持するため、安全管理に係る会議を開催し、安全に関する情報の共有、研修初動訓練などを実施していきます。

また、災害など緊急事態が発生した場合に迅速な初動体制を確立し、鳥取空港事業継続計画（A2—BCP）に対応するため、外部との災害関連対策協定を締結します。なお、リスク分担の対応につきましては、令和5年3月16日付鳥取県営鳥取空港特運営事業等公共施設等運営権実施契約の延長等に関する合意書（以下「合意書」という。）第11章（リスク分担）第36条（不可抗力の発生等）の規定に基づく対応とします。

<スケジュール>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
安全管理会議の開催	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
（空港内関係機関）			●		●			●			●	
月例初動訓練	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
総合訓練							●					
安全管理研修			●		●			●			●	

②空港施設の維持管理

鳥取空港機能管理規程に基づき、維持管理計画を作成し、点検計画に基づき、施設の異常の有無の確認、異常箇所の早期発見、損傷の進行状況を日常的に把握し、リスクアセスメントによるリスク低減を図るなど、適切な施設の維持管理に努め安全・安心な維持管理を行います。

③空港施設全体の維持管理更新計画（長寿命化計画）の活用

鳥取空港の施設（土木施設、建築施設、全車両、国際線ターミナルビル含む）は、各法令に基づいた維持管理が必要であり、令和4（2022）年度に策定した「鳥取空港維持管理更新計画（長寿命化計画を含む）」に基づき、計画的に維持、修繕、点検を行うことによって、これらの施設を一体的、効率的かつ合理的に維持管理することで、施設の「長寿命化」を図ります。

年間計画工程表（巡回点検等）

【エアサイド(巡回点検)】

施設区分	施設名称	点検区分	標準回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
滑走路	10/28	巡回点検Ⅰ	3回/年	■			■				■				
		巡回点検Ⅱ	4回/年												
誘導路	E	巡回点検Ⅰ	4回/年	■			■				■			■	
		巡回点検Ⅱ	8回/年												
	W	巡回点検Ⅰ	3回/年	■			■				■				
		巡回点検Ⅱ	3回/年												
エプロン	E	巡回点検Ⅰ	3回/年	■			■				■				
		巡回点検Ⅱ	5回/年												
	W	巡回点検Ⅰ	4回/年	■			■				■			■	
		巡回点検Ⅱ	6回/年												
	S	巡回点検Ⅰ	3回/年	■			■				■				
		巡回点検Ⅱ	5回/年												
着陸帯、滑走路端安全区域			1回/年	■											
誘導路帯			1回/年	■											
過走帯			1回/年	■											
GSE通行帯等			1回/年	■											
保安道路、場周道路			1回/年	■											
場周柵			1回/年	■											
のり面、護岸			1回/年	■											
排水施設、進入灯橋			1回/年	■											

※巡回点検Ⅱは日々のランウェイチェック及び場周点検にて行うものとする。

【ランドサイド(巡回点検)】

施設区分	点検項目	標準回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
旅客ターミナル地区にある歩道ルーフ 門型・片持ち式道路標識	構造物の状況	1回/年	■											
	取付の状況	1回/年	■											
構内道路、駐車場		1回/年	■											
路側式・複柱式道路標識、道路付帯施設		1回/年	■											
のり面、擁壁		1回/年	■											

【ランドサイド(車上巡回による点検)】

施設区分	標準回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
構内道路、駐車場	3回/年	■			■					■			

【制限表面定期点検】

施設区分	標準回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
制限表面	4回/年	■			■					■			■

【緊急点検】

前述以外で地震、台風、強風、高波浪などの襲来直後には滑走路以外の部分（特に海岸部や平地部）も含め緊急点検を実施する。

点検によって災害に見舞われたことが判明した場合には、迅速に施設設備等の損害状況を把握し、復旧に向けた体制を速やかに確立する。

年間計画工程表（経常維持修繕工事）

工種	施工箇所	標準回数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
草刈工	制限区域内	2回/年													
	ターミナル地区	3回/年													
	管理用地	1回/年													
清掃工	舗装面清掃工	滑走路													
		誘導路													
		エプロン													
		ターミナル地区 (構内道路)	12回/年	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		ターミナル地区 (歩道等)	1回/週												
	ゴミ除去工	適宜						点検結果により	適宜						
	排水溝清掃工	1回/年													
	道路付属物清掃工	1回/年													
沈砂池清掃工	適宜						点検結果により	適宜							
標識維持工	飛行場標識維持工	滑走路						点検結果により	適宜						
		誘導路	適宜					点検結果により	適宜						
		エプロン	適宜					点検結果により	適宜						
植栽維持工	剪定(夏季・冬季)	1回/年		(夏)							(冬)				
	雑草抜き取り	1回/年													
	施肥	1回/年													
	灌水	1回/年													
	薬剤散布	2回/年													
緊急補修工	舗装補修工	適宜													
	施設維持工	適宜													
除雪工		適宜													

④飛行場灯火施設の運用管理

鳥取空港機能管理規程に基づき、運用手順、飛行場灯火施設保守要領等を遵守し、航空保安施設としての機能の低下を防ぎ、航空機の安全航行に期するため、適切な管理運用を行います。

⑤有色防除雪氷剤処理対策の検討

空港における航空機の防除雪氷作業について、航空会社はこれまで無色の防除雪氷剤（ADF）を使用していますが、国際規格の改訂に伴い令和6年度冬ダイヤから有色ADFを使用する必要があります。この有色ADFの使用に起因して排水基準を超える水が空港外に排出されないよう国土交通省航空局策定の「有色ADF処理対策検討手引き」等を参考に、モニタリング（水質検査）を行います。モニタリングの状況を見て、必要に応じて対策を検討します。

⑥調整池溢水対策の検討

令和5年7月の集中豪雨によって調整池が越水したことから、調整池の設計洪水調整容量および流末である海域までの維持管理上の問題の有無を確認し、排水能力の改善の必要性を検討します。

(2) モニタリング

①セルフモニタリングの基本的な方針

当社が、合意書等に定められた業務を適切かつ確実に履行し、県が求める要求水準を充足し、空港の安全運用を確保し、さらに空港利用者へのサービス向上を目指し、モニタリング計画書に基づくセルフモニタリングを実施します。セルフモニタリングは、以下のモニタリングを行います。

- ・要求水準の充足に対するセルフモニタリング
- ・経営に対するセルフモニタリング
- a) 要求水準の充足に対するセルフモニタリングの方法

(ア) 基本方針

空港運営等事業において、空港施設等の運営、維持管理業務について、関係法令および空港機能管理規程（以下「空港機能管理規程等」という。）に基づき、セルフモニタリングを行います。

(イ) 実施体制

モニタリング制度が効果的に機能するように、組織内で情報を一元化、情報を共有する体制を構築します。

(ウ) セルフモニタリングの方法

【実施内容】

- ・空港機能管理規程等に基づき、業務日誌、点検記録簿、管理報告書等の様式を定め、日常勤務や保守点検を記録し、空港管理部長、総務部長および専務取締役が業務内容についてチェックを行います。
- ・空港機能管理規程等に基づき、施設の管理状況や作業内容など月報を作成し、空港管理部長、総務部長および専務取締役がチェックするとともに、県に報告します。
- ・事業の実施状況について、事業報告書を作成し、総務部長および専務取締役が実施状況を適切にチェックするとともに県に報告します。
- ・合意書等によって県から空港管理のため借受けている関連備品について、数量確認、適切な場

所（備品等に悪影響を与えない場所）での保管、適切な利用、作動点検などを実施し、管理状況をチェックリストに記載して記録するとともに県に報告します。

- ・顧客満足度調査や空港利用者からの意見を取り込む仕組みを構築します。
- ・航空法等の法令等に基づく定期監査など適切に対応します。
- ・第三者による外部モニタリング

安全・安心な空港運営のために重要な維持管理部門等に対し、これまでも実施してきたセルフモニタリングに加え、空港等の維持管理実績を有する外部機関（コンサルタント会社等を想定）から要求水準に対する確実な対応や、セルフモニタリングの有効性などについて確認を受け、その結果をセルフモニタリングにフィードバックしていきセルフモニタリングのレベル向上を図ります。

【評価方法】

空港機能管理規程等に基づき、実施します。

【結果の反映方法】

航空法等の法令に基づく定期監査の結果、県のモニタリング結果などを含め、改善すべき内容は、年間PDCAサイクルに基づき、実施体制や次年度の単年度計画を見直すなど適切に反映していきます。

b) 経営に対するセルフモニタリングの方法

(ア) 基本方針

空港運営の要求水準の確保や事業継続性を担保するため、事業の健全な運営を阻害するおそれのある事象あるいは原因はないか、セルフモニタリングを行います。

(イ) 実施体制

特定運営事業の収支を把握し、会計処理を適切に実施するため、仕組みと会計処理のチェック体制を構築します。

(ウ) セルフモニタリングの方法

【実施内容】

- ・日々の会計事務について、会計担当者以外の者（総務部長）が内部監査を適正に行います。
- ・毎月の収支状況の把握と会計処理が適切になされているか、顧問税理士事務所によって月例監査を実施します。
- ・事業の実施状況について、収支計算書を作成し、社内および顧問税理士事務所によって実施状況を適切にチェックするとともに県に報告します。事業年度終了後の収支計算書のほか、随時報告等については、県と協議してモニタリング計画に反映します。

【評価方法】

監査意見やモニタリング

【結果の反映方法】

改善すべき事項は、実施体制や次年度の単年度計画の見直しなど適切に反映していきます。

②セルフモニタリング結果の情報公開方法

- ・セルフモニタリング結果は、当社のホームページにて公開します。
- ・本事業の収支および当社の財務状況について、当社のホームページにて公開します。
- ・セルフモニタリング結果に対する外部からの意見や対応方針等は適時ホームページにて公開します。

③県によるモニタリングへの対応

当社としても安全・安心の確保が第一と考えており、本空港を利用されるお客様に安心してご利用いただけるよう情報提供することが必要と考えており、セルフモニタリングの方法、結果について、ホームページに公開し、県が実施するモニタリング結果とその対応等について、情報公開を図り、利用者からの意見も加味しながら、より良い空港運営ができる仕組みを構築していきます。

④県による中間評価委員会（２回目）の実施

令和6年8月から11月頃に県による中間評価委員会（２回目）の実施が予定されています。

（３）法令等に基づく検査等

国等、関係法令に基づき実施される検査について適切に対応します。また、検査結果については、県と情報共有します。

（４）維持管理業務等の効率化

安全・安心な空港の管理運営を維持向上するとともに、令和4（2022）年度に策定した「鳥取空港維持管理更新計画（長寿命化計画）」に基づき、計画的に施設の維持、修繕、点検を実施し、施設を一体的、効率的かつ合理的に維持管理することで施設の「長寿命化」を図ります。

また、他空港の先進的な取組事例（AIを活用した取組など）の導入検討、業務のデジタル化、外部発注の見直し検討等を進め、経営基盤を強化します。

①外部の専門業者との連携

- ・外部の専門業者との協力体制を確立し機動的な空港運営を実施
- ・アドバイザー契約、コンサルタント契約などによるノウハウの活用

②危機管理能力の向上

- ・月例訓練、総合訓練など各種想定に基づいた訓練の継続実施
- ・A2-BCP計画（空港業務継続計画：空港全体としての機能保持および早期復旧に向けた目標時間や関係機関の役割分担等を明確化したもの）の精度向上

③空港脱炭素化の検討

令和5（2023）年に立ち上げた「鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会」によって策定した計画やロードマップを着実に実行します。

- ・国際線ターミナルビル空調熱源の高効率化検討
- ・空港車両のEV化
- ・航空灯火LED化
- ・地域との連携の検討

鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業

■太陽光発電設備の導入・拡大

- ・事業主体、採算性、空港関係者の連携強化等の検討・事業体制の構築
- ・空港敷地内、移転元地、調整池などの設置可能場所に導入



鳥取空港脱炭素化推進計画イメージ（鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会 第1回会議資料一部修正）

6. 滑走路等の更新投資に関する費用負担の計画

空港の基本施設である滑走路、誘導路など国の補助事業の対象となる更新投資（更新・拡張）が発生した場合の費用負担については、県から特定事業の選定において定量的評価として示されている財政負担額の削減見込額（1,700万円）に、延長契約によって発生する削減見込額（1,500万円 同様に推計）を加算した額（3,200万円）を限度とさせていただきます。

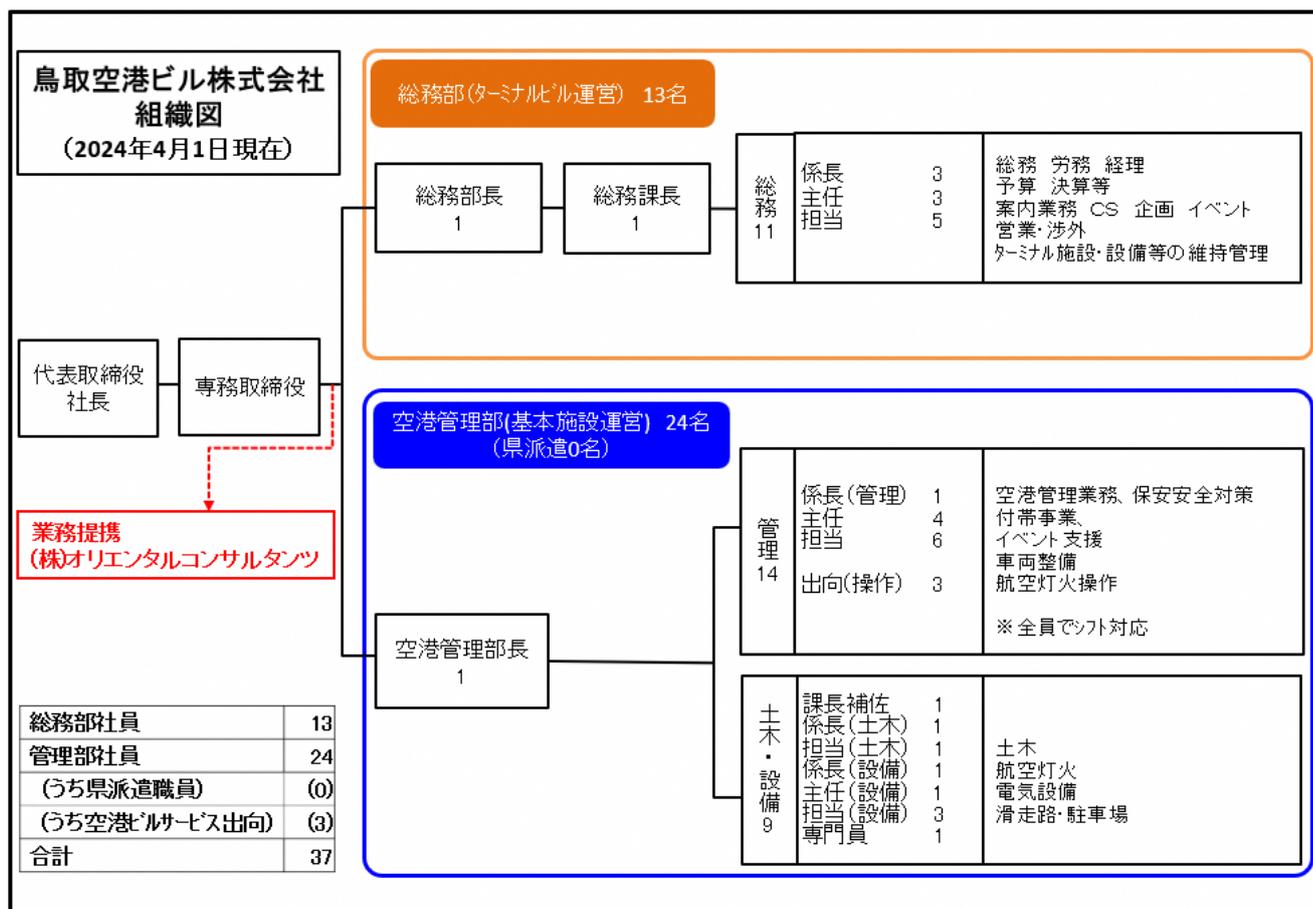
【負担イメージ】

当社負担見込み額	2,208万円（3,200万円×0.69（税率31%））
----------	------------------------------

※税率は想定税率のため負担時にはその時点の税率、事業期間中の課税状況を勘案させていただきます。

7. 事業実施体制

(1) 組織図



(2) コンセッションの事業の内容

① 空港運営等事業

- ・ 空港運営施設等運営等業務
 - (空港機能管理規程、セイフティ編およびセキュリティ編の改訂および国への届出、着陸料の設定・収受、施設運用、障害物監視、警備、航空機事故等の危機管理対策、消防、救難、鳥獣防除、除雪、リモート対応、ノータム発出、空港運営施設等の運営・維持管理など)
- ・ 空港航空保安施設等運営等業務
 - (航空灯火、航空障害等および付帯施設の運用、維持管理など)
- ・ 国際線ターミナルビル運営等業務 (料金設定および収受、貸付、警備、維持管理、除雪など)
- ・ 駐車場施設等運営等業務
 - (料金設定および収受、警備、交通誘導、維持管理、除雪など)
- ・ 空港用地運営等業務 (空港用地貸付 (有償、無償)、空港用地の維持管理)

② 環境対策事業

- ・ 航空機騒音に係る測定業務への協力
- ・ 滑走路利用割合に関する地元調整への協力 (データ収集、取り纏め等)

③付帯事業

- ・ハイジャック等防止対策
(航空運送事業者が行う保安対策業務等に係る費用の2分の1負担)
- ・協議会への参画 (鳥取空港の利用を促進する懇話会への参画)
- ・運営権者が提案する事業・業務
(空港の就航促進・利用促進、「空の駅」化に関する事業)

(3) 任意事業

特定運営事業の円滑な実施および空港機能を阻害しない範囲で行う以下の事業について、サービス・収益の向上を目指し、整備に伴う課題、採算性など、調査、研究、検討します。

- ・駐車場カーポート設置調査研究
(サービス性向上 → 日除け、雨除け、積雪対応、除雪作業減)
- ・ワーケーションオフィス、レンタルオフィス、会議室等の建設についての調査研究
(70分で東京へ行ける首都圏に近いオフィス)
- ・商業施設充実化に関する調査研究 (直営売店による販路拡大、多彩な商品が販売可能な汎用自動販売機の導入、新規テナントの誘致)
- ・プライベートジェット専用施設整備の可能性について調査研究
- ・小型機格納庫の整備の可能性について調査研究
- ・空港周辺の二次交通改善 (空港アクセス改善) に関する調査、研究、実行

鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業

- 「名探偵コナン」を活用した集客事業
 - ・鳥取砂丘コナン空港の魅力アップ (限定販売商品、サービス、ノベルティ等)
 - ・鳥取観光の玄関口としての役割強化 (県内観光のスタート、ゴール地点)
(空港連絡バス限定グッズ付きチケット企画など)

(4) 人事および雇用に関する計画

- ① 空港経営のために必要な人材を確保するとともに、適切な労働環境を創出し維持します。また、人員体制の強化として自助努力で適切な人材育成を行い、外部人材や企業ネットワークを形成して協業体制を構築するとともに、社員に研修等の機会を設け技術向上に努めます。
 - ・ 空港基本施設等運営業務、空港航空保安施設等運営業務などこれまで県から引継いだノウハウを、民間の手法によって効率的・継続的で安全・確実な空港の管理運営を行います。
 - ・ 航空機利用者の増加、利用促進、「空の駅」化、ツインポート、空港の賑わい創出に関する事業等に必要の人材を確保します。
- ② 空港の管理運営にあたり県と緊密に連携し、管理運営の確実性・信頼性を高めます。

③ 人材育成に関する施策

- ・ 国等が実施する空港管理に関する研修への参加、当社が実施する研修などを通じ、空港の安全管理・業務水準の向上を図るとともに、一人ひとりの社員が自発的、積極的、継続的にスキルアップにチ

チャレンジできる環境を推進していきます。

- ・他空港の先進的な事例を学び積極的に取組む人材を育成します。
- ・新技術・新工法の導入に適應できる人材育成を目指します。
- ・専門業者との人事交流や協力関係の構築によって社員の育成、技術向上を目指します。
- ・社員が新たに技術的、知的な挑戦が可能な魅力のある職場づくりを行います。
- ・経営主体として最も重要な部分である人材確保および社員の能力開発を行います。
- ・社員の年齢構成の適正化を図り、技術、ノウハウの継承が可能で持続的な体制の構築を目指します。
- ・前述を達成するため自助努力で適切な人材確保および人材育成を行います。

(5) 委託会社および協力会社との協業体制

- ・空港の管理運営および技術的な知見を有する委託会社や協力会社と連携を強化し、安全・安心での確かな空港の管理運営を実施します。

(6) 運営権者の創意工夫、利点を活かしたコスト削減など

- ・長寿命化計画によるコスト削減

令和4(2022)年度に策定した「鳥取空港維持管理更新計画(長寿命化計画を含む)」に基づき、施設を一体的、効率的かつ合理的に維持管理、修繕、点検を行うことによって「長寿命化」を図りコスト削減を目指します。

- ・新技術、新工法

空港の管理運営および技術的な知見を有する協力会社と連携を強化することで、専門技術やICTツール等を活用した空港施設の長寿命化、維持管理の効率化、高度化を進めます。

- ・自由度の高い空港運営

民間経営の自由度を活用し、直営売店による販路拡大、多彩な商品が販売可能な汎用自動販売機の導入、新規テナントの誘致などによって収入増を目指します。

また、コスト削減や施設利用料金の適宜見直によって更なる収入増を図り運営経費に充当します。

- ・長期契約、性能発注、一括発注

維持管理、保守点検などの長期契約化によるコスト削減や性能発注、一括発注による更新費用の削減を目指します。ただし、公平性、透明性の確保に努めます。

8. 収支計画

鳥取空港維持管理更新計画（長寿命化計画）に基づいた収支計画によって更なる増収、効率化、長寿命化などにより、メリットが出た収益を更なるサービス向上に投資するなど、より良い空港運営を目指します。

(1) 全体計画の収支計画（税込み）

（単位：千円）

	H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026
運営交付金	334,868	428,308	431,834	431,432	431,030	430,629	430,227	429,825	429,423
着陸料収入	47,397	63,780	64,366	64,366	64,366	61,314	62,114	62,914	63,714
土地建物等貸付収入	23,112	31,102	31,387	31,387	31,387	47,390	48,949	50,508	52,068
その他収入	392	528	533	533	533	1,000	1,500	2,000	2,500
収入合計	405,769	523,718	528,120	527,718	527,316	540,333	542,790	545,247	547,705
空港維持管理費	342,991	438,967	442,334	442,334	442,334	447,624	450,624	449,624	451,624
国際ターミナル運営費	58,276	78,022	78,336	77,933	77,532	91,120	91,120	91,120	91,120
支出合計	401,267	516,989	520,670	520,267	519,866	538,744	541,744	540,744	542,744
収支	4,502	6,729	7,450	7,451	7,450	1,589	1,046	4,503	4,961

※平成30年6月提出全体計画 ※消費税は令和元年度に8%から10%に変更しています。

※令和5～令和8年度は、この全体計画の収支計画に基づき、運営交付金の消費税区分の変更を踏まえて新たな事業を追加した収支計画に見直します。具体的な収支計画は、後述のとおりです。

(2) 契約期間中の収支実績（税込み）

（単位：千円）

	H30年度 2018年度 (実績)	R元年度 2019年度 (実績)	R2年度 2020年度 (実績)	R3年度 2021年度 (実績)	R4年度 2022年度 (実績)	R5年度 2023年度 (計画)	R6年度 2024年度 (計画)
運営交付金	325,690	419,831	452,991	458,533	463,201	476,543	502,341
(1)運営交付金	325,690	419,831	436,187	436,549	427,094	430,629	430,227
(2)その他支援金	0	0	16,804	21,984	36,107	45,914	72,114
着陸料収入	46,061	63,127	16,897	16,749	32,820	61,314	62,114
土地建物等貸付収入	34,699	51,615	25,547	27,399	42,437	51,710	52,220
その他収入	924	2,375	2,404	14,271	65,271	6,562	8,056
収入合計(a)	407,374	536,948	497,839	516,952	603,729	596,129	624,731
空港維持管理費	331,965	434,442	423,762	412,272	494,107	483,486	515,307
国際ターミナル運営費	55,935	84,639	76,703	88,453	114,930	107,174	107,174
新たな事業	—	—	—	—	—	41,649	41,608
支出合計(b)	387,900	519,081	500,465	500,725	609,037	632,309	664,089
消費税還付額(c)	—	—	—	—	—	37,769	40,404
収支(a+b+c)	19,474	17,867	△2,626	16,227	△5,308	1,589	1,046

(3) **鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業**

令和5(2023)年に県が実施した税務デューデリジェンス調査において、「運営交付金は不課税取引である。」との指摘を受けたため、令和5(2023)～令和8(2026)年度の運営交付金の消費税区分を課税取引から不課税取引に変更します。これに伴い、消費税額として見込んでいた金額(以下「消費税相当額」という。)は、次のとおり「鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業」として計画し、活用します。また、令和5(2023)～令和8(2026)年度の除雪費は、税抜きの実績額で精算します。

① **運営交付金消費税相当額**

(単位:千円)

項目	R5	R6	R7	R8	合計
運営交付金額(定額交付金)	416,496	416,094	415,692	415,290	1,663,572
運営交付金から消費税相当額を差し引いた金額	378,633	378,268	377,902	377,537	1,512,340
消費税相当額	37,863	37,826	37,790	37,753	151,232

② **鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業**

項目	R5	R6	R7	R8	合計
1. 空港二次交通改善に関する取組	31,889	10,000	10,000	10,000	61,889
2. 空港カーボンニュートラルに関する取組		20,000	20,000	20,000	60,000
3. 「名探偵コナン」を活用した集客事業	3,704	2,506	7,790	7,753	21,753
4. 空港利便性向上に向けた多様な受入体制検討業務	2,270	5,320			7,590
合計	37,863	37,826	37,790	37,753	151,232

記載金額は企業会計価格(税抜き)

③ **鳥取砂丘コナン空港を拠点とした新たな事業(全体計画)**

項目	年度	計画
1. 空港二次交通改善に関する取組	R6～ R8	<p>令和6年度以降は「出口戦略1(情報)」、「出口戦略2(移動)」、「出口戦略3(活動)」を継続して推進し、各出口戦略の目指す変化を令和8年度に達成することを目標とする。</p> <p>また、空港運営情報をDX化し、効果的かつ効率的な空港運営を行い空港二次交通などへの活用を目指す。</p> <p>■ 出口戦略1(情報)</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥取版「旅CUBE」for ANAの構築(継続) 令和6年度は「麒麟のまち」圏域の各種交通、クーポンや観光チケットの取扱いを実施する。その後、中・西部圏域、島根県域に展開していく。 <p>■ 出口戦略2(移動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 携帯GPSデータを活用した人流分析(ビッグデータ・AI活用)(継続) ツインポート間の移動実証実験(継続) ニーズ調査を継続し、鳥取版「旅CUBE」との連携の可能性を探る。 二次交通検証・改善 人流分析データを活用し、路線見直しや新たな路線検討を行う。 また、小型モビリティの導入検討も含めて検討に必要な実証実験を行う。 <p>■ 出口戦略3(活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ツインポート物産連携(継続) 鳥取空港での食、物産の充実 新規テナントの誘致などによって、食、物産の充実を図る。 ワークスペース等の充実 ターミナルビルロビーにワークスペースを設置し、ビジネス利用者の充実を図る。 <p>■ 「鳥取砂丘コナン空港航空機利用・地域交通戦略」フォローアップの取組</p> <p>各出口戦略の目指す変化を令和8年度に達成するため、PDCAの一環として各年度の取組に対する効果検証やチェック・評価を行う。また、この空港二次交通改善に関する取組をスパイラルアップした取組として第2期コンセッションに繋げるため、二次交通改善活動プラットフォームを活用し、評価とりまとめを行う。</p>

<p>2. 空港カーボンニュートラルに関する取組</p>	<p>R6～ R8</p>	<p>令和6年3月に「鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会」によって策定した計画やロードマップを着実に実行するため、当初計画の内容に加えて、新たに次の事業を行う。また、空港運営情報をDX化し、効果的かつ効率的な空港運営を行い空港脱炭素化などへの活用を目指す。</p> <p>■太陽光発電設備等の導入・拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業主体、採算性、空港関係者の連携強化等の検討・実施体制の構築 ・空港敷地内、移転元地、調整池などの設置可能場所に導入
<p>3. 「名探偵コナン」を活用した集客事業</p>	<p>R5～ R8</p>	<p>「名探偵コナン」を活用した新たな取組によって更なる集客を図る。</p> <p>■鳥取砂丘コナン空港愛称化10周年記念イベントの企画・開催</p> <p>■鳥取砂丘コナン空港の魅力アップ（限定販売商品、サービス、ノベルティ等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナル商品企画立案、調整着手 <p>■鳥取観光の玄関口としての役割強化（県内観光のスタート、ゴール地点）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空港連絡バス限定グッズ付きチケット販売検討 ・ツインポート実証実験オリジナルチケット企画 など
<p>4. 空港利便性向上に向けた多様な受入体制検討業務</p>	<p>R5・ R6</p>	<p>新たな視点として外部の専門的な知見を活用し、空港利便性向上に向けた情報収集・分析および検討を行い、効果的・効率的で多様な受入体制整備の方策を取りまとめる。</p> <p>■鳥取空港と近隣空港における国内外の航空需要の整理</p> <p>近隣空港について、国際定期便、国際チャーター便、プライベートジェット等の需要特性等の傾向を把握する。</p> <p>■鳥取空港の航空需要可能性の情報収集・分析</p> <p>国内外の空港関連企業・団体等から情報収集し、鳥取空港の多様な利用の可能性を探る。また、検疫体制の常設化への取組等を検討する。</p> <p>■他空港の取組についての事例整理</p> <p>同規模な他空港の取組状況事例を情報収集・整理する。</p> <p>■鳥取空港利便性向上に向けた取組のあり方（案）の検討</p> <p>鳥取空港の目指すべき空港像、利便性・多様性の向上への手順などの望ましい取組のあり方（案）を作成する。</p> <p>■鳥取空港利便性向上に向けた取組のあり方（案）に係る意見聴取</p> <p>利便性等の向上に向けた取組のあり方（案）をもって、直接関係する組織・団体等から実現の可能性等について意見を聴取し結果をとりまとめる。</p> <p>■プライベートジェット機の就航に関する検討</p> <p>プライベートジェット機（ビジネスジェット機を含む）の就航に関する情報収集・分析および検討を行い、効果的・効率的で多様な受入体制整備の方策を取りまとめる。また、小型機専用格納庫の必要性など利便性向上に資する施設の必要性および設置要件等を整理し方策を取りまとめる。</p> <p>■鳥取空港利便性向上に向け、空港基本施設のあり方を検討</p> <p>航空会社等から意見を聴取し空港基本施設（エプロン等）の利便性向上に向けたあり方を検討する。</p>

④令和6年度実施内容（詳細）

（ア）鳥取版「旅CUBE」for ANAの構築

【事業目的】

鳥取版「旅CUBE」for ANAを構築し、鳥取空港二次交通、周辺観光情報を一元的に提供することを目指す。

【令和6年度実施内容】

令和6年度は「麒麟のまち」圏域の各種交通、クーポンや観光チケットの取扱いを実施する。その後、中・西部圏域、島根県域に展開していく。

- ・鳥取県内各種交通の取扱い
- ・クーポンや観光チケットの取扱い
- ・情報検索や事前購入
- ・キャッシュレス対応



【スケジュール】

令和6年4月～	「麒麟のまち」圏域の各種交通、クーポンや観光チケットの取扱いに向けて検討開始。その後、中・西部圏域、島根県域に展開
---------	---

(イ) 携帯GPSデータを活用した人流分析（ビッグデータ・AI活用）

【事業目的】

空港二次交通充実に向け、需要可能性のデータ把握を行い、既存バス路線等の運行妥当性検証や見直しおよび新たな路線検討の基礎資料とする。

【令和6年度実施内容】

県が既に保有する位置情報データ（2019年および2022年の5月分）を使用した人流分析に加えて、アフターコロナ（2023年度）の位置情報データを使用した人流分析を行う。

携帯GPSデータを活用した人流分析

■ 県保有のデータに加えて、新たにアフターコロナのデータとして、2023年のデータを追加購入し、人流分析を行う。

- 携帯GPSデータによる県民、観光等来訪者の人流分析を行い、既存バス路線の運行妥当性の検証、見直しの基礎資料とする
 使用データ：KDDIのユーザーの位置情報データを使用、県が既に保有するデータ（2019年と2022年の5月）を活用
 分析内容：鳥取空港～鳥取駅のエリア（鳥取駅、砂丘、鳥取城跡等を含む）の観光移動、生活移動の分布を整理し、現状路線の妥当性を評価
 鳥取空港を起点、または終点とする移動の発地、着地を整理し、最初と最後の目的地、地点間の移動状況等を把握する

空港周辺のバス路線の概況

- 空港～鳥取駅の連絡バスのほか、路線バス、土日祝限定の循環バスが運行

携帯GPSデータの分析/株式会社GEOTRAのソリューション

- KDDIのユーザーを対象とした人流分析を行い、空港発の移動の目的地、時間帯等の分析、周辺主要施設来訪者の居住地等を分析

加工プロセス①

人の行動パターンを抽出

GPS位置情報により、属性毎の人の行動パターンを抽出（AIを活用）

加工プロセス②

過走人流データを作成

抽出した行動パターンを元に、仮想的な人流データを全人口で作成

加工プロセス③

経路情報を付与

過走人流データのそれぞれの移動に対し、経路情報を付与

トラップ長100km以上のトラップのOD

GW期間

1,612人

100km以上の長距離トラップ数が約1.5倍に

GW期間外

1,074人

出典：© Esri Japan（下図）を基に
八千代エンジニアリング(株)作成

出典：(株) GEOTRA「令和4年度 ビッグデータ活用による
旅客流動分析 実証実験事業 成果報告書」

【スケジュール】

令和6年3月～令和6年6月	アフターコロナデータを活用した分析
---------------	-------------------

(ウ) ツインポート間の移動実証実験・ツインポート物産連携

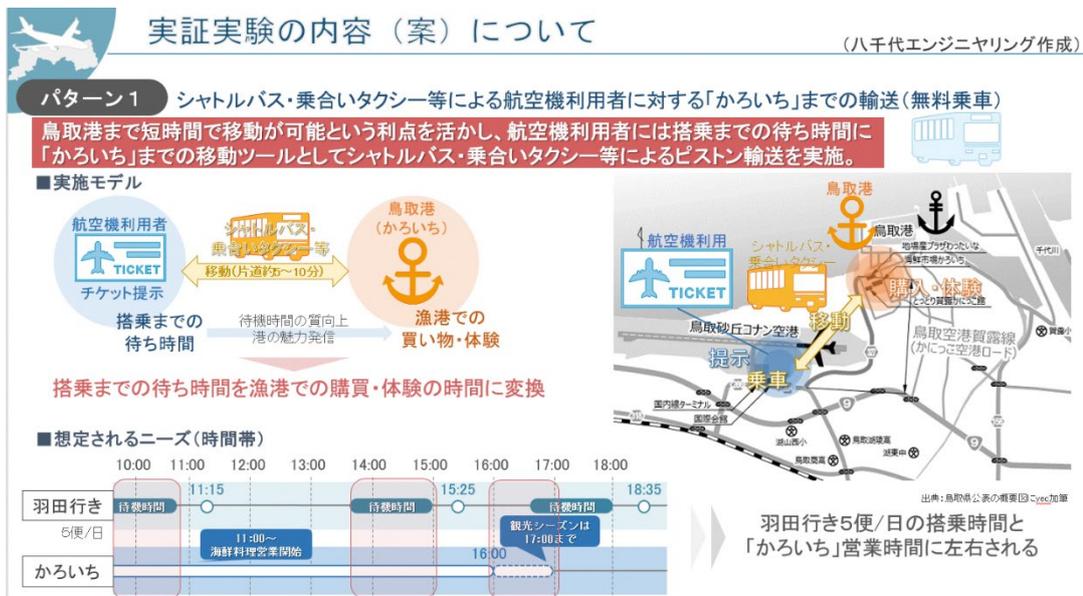
【事業目的】

鳥取空港と鳥取港（賀露）（ツインポート）の連携の強化を推進する。

【令和6年度実施内容】

鳥取空港と鳥取港（賀露）（ツインポート）の連携強化の一環として、鳥取港（賀露）の物産等を鳥取空港内で販売するイベントを実施する（具体的な販売方法は未定）。

同時にツインポートの一体化（交通手段確保）に向けて、ツインポート相互移動円滑化に関する実証実験を実施し、航空機利用者の待ち時間を利用したツインポート間の往来および買い物を促す。これらのイベント・実証実験では、買い物クーポン券（商品券）の配布等による購買意欲の醸成を図る。また、ツインポート間に加え鳥取大学前駅～鳥取空港間の移動についても検証する等、多くの人に利用・参加してもらう工夫を行う。なお、商品券の配布内容は、県と協議する。



【スケジュール】

令和6年4月 ～令和7年3月	GW、夏休み、秋の観光シーズン、イベント等に合わせて実施予定
-------------------	--------------------------------

(エ) 「名探偵コナン」を活用した集客事業

【事業目的】

「名探偵コナン」を活用した新たな取組によって更なる集客を図る。

【令和6年度実施内容】

鳥取砂丘コナン空港オリジナル商品を制作し販売する。販売収入の用途については、事業拡大への再投資、社会貢献活動への寄付など県と協議する。

- ・鳥取砂丘コナン空港愛称化10周年記念事業の企画・開催
- ・青山剛昌先生の空港描き下ろしイラストを使用したオリジナル雑貨商品の制作・販売
- ・オリジナル什器、ポスター、POP等を制作
- ・カプセルトイなどインバウンドにも人気のあるカテゴリでの商品開発を検討
- ・空港連絡バス限定グッズ付きチケット販売検討
- ・ツインポート実証実験オリジナルチケット企画（二次交通実証実験等への活用）など

【スケジュール】

令和6年4月 ～令和7年3月	企画立案・調整 鳥取砂丘コナン空港愛称化10周年記念事業の企画・開催 鳥取砂丘コナン空港オリジナルグッズの制作 空港連絡バス限定グッズ付きチケット販売検討 ツインポート実証実験オリジナルチケット企画など
-------------------	---

(オ) 空港利便性向上に向けた多様な受入体制検討業務

【事業目的】

新たな視点として外部（航空会社、国土交通省航空局、C I Q 5 官署（税関、出入国管理、人検疫、動物検疫、植物検疫）等）の専門的な知見を活用し、空港利便性向上に向けた情報収集・分析および検討を行い、効果的・効率的で多様な受入体制整備の方策を取りまとめる。

【令和6年度実施内容】

- (1) 鳥取空港と近隣空港における国内外の航空需要の整理
米子空港のほか近隣空港について、国際定期便、国際チャーター便、プライベートジェットを含めた現状データ（国際旅客流動を含む）を整理し、路線状況、需要特性等の傾向を把握する。
- (2) 鳥取空港の航空需要可能性の情報収集・分析
把握した傾向等について、国内外の航空会社、各旅行代理店、県内各観光協会、行政機関等から実態を情報収集・分析し、鳥取空港の多様な利用の可能性を探るとともに、コロナ禍後の需要増を見込んで国際チャーター再開を目的として立上げたワーキンググループにC I Q 5 官署を加えて、検疫体制が常設となるための条件・手順・必要な取組等を議論・検討し、実現に向けた課題を把握する。
- (3) 他空港の取組についての事例整理
鳥取空港と同規模の空港の取組状況を、当該空港の設置管理者から情報収集し、事例を整理する。
- (4) 鳥取空港利便性向上に向けた取組のあり方（案）の検討
前述の課題、事例整理を踏まえたうえで、鳥取空港の目指すべき空港像を基に、鳥取空港の利便性・多様性の向上への手順などの望ましい取組のあり方（案）を作成する。併せて、第1期コンセッション運営権者である当社、第2期コンセッション運営権者、県、関連する国機関、行政機関およびその他事業者などの役割分担（案）を検討する。
- (5) 鳥取空港利便性向上に向けた取組のあり方（案）に係る意見聴取
利便性等の向上に向けた取組のあり方（案）をもって、鳥取空港に直接関係する組織・団体等から実現の可能性、難易性、緊急性の有無などについて、意見を聴取してその結果をとりまとめる。
- (6) プライベートジェット機の就航に関する検討
プライベートジェット機（ビジネスジェット機を含む）の就航に関する情報収集・分析および検討を行い、効果的・効率的で多様な受入体制整備の方策を取りまとめる。
また、小型機専用格納庫の必要性など利便性向上に資する施設の必要性および設置要件等を整理し方策を取りまとめる。
- (7) 鳥取空港利便性向上に向け、空港基本施設のあり方を検討
航空会社等から意見を聴取し空港基本施設（エプロン等）の利便性向上に向けたあり方を検討する。

【スケジュール】

令和6年4月 ～令和6年12月	利便性向上に向けた情報収集 外部意見聴取・検討、取組のあり方（案）とりまとめ
--------------------	---

(カ) 空港カーボンニュートラルに関する取組

【事業目的】

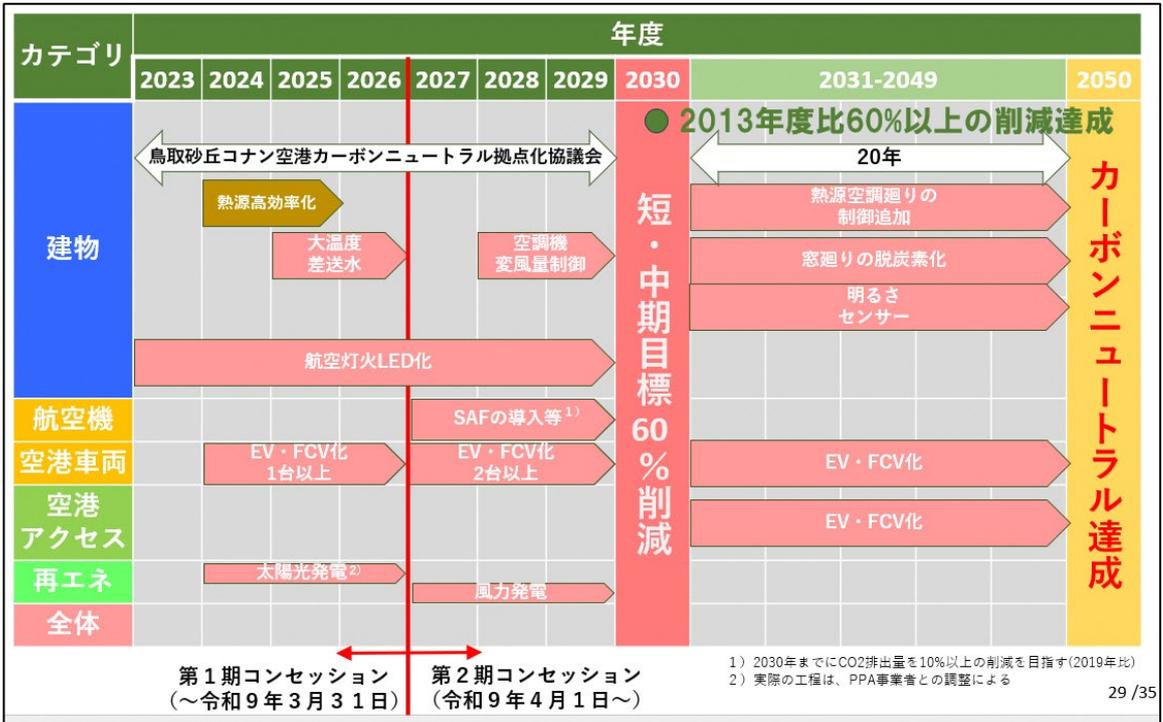
「鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会」によって決定した太陽光発電設備の導入・拡大に向け、関係者との調整を図り実施体制を構築する。

【令和6年度実施内容】

- ・事業主体、採算性、空港関係者の連携強化等を図り実施体制を構築する。
- ・空港敷地内、移転元地、調整池などの設置可能場所への導入に向けて取り組む。

【スケジュール】

令和6年4月 ～令和7年3月	事業主体、採算性、空港関係者の連携強化等の検討・実施体制の構築
-------------------	---------------------------------



鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会資料（第5回）令和6年1月



鳥取砂丘コナン空港カーボンニュートラル拠点化協議会資料（第5回）令和6年1月

(4) 令和6(2024)年度の収支計画

(単位:千円)

項目	予算額		備考
	税込キャッシュ フロー収支	企業会計収支 (損益計算書)	
1. 運営交付金	502,341	502,341	不課税
(1) 定額交付金	416,094	416,094	
(うち消費税相当額)		(37,826)	
(2) 除雪費	14,133	14,133	実績精算
(3) 滑走路等電気料金高騰対策費	19,542	19,542	臨時的経費
(4) 航空灯火LED化補用品等購入整備費	20,842	20,842	臨時的経費
(5) 低層風情報提供システム維持管理費	3,980	3,980	臨時的経費
(6) 航空灯火受配電盤中央監視装置更新	27,750	27,750	臨時的経費
2. 着陸料収入	62,114	56,468	
(1) 定期便	60,514	55,013	
(2) チャーター便	1,200	1,091	
(3) その他	400	364	
3. 土地建物等貸付料収入	52,220	48,928	
(1) 土地使用料	16,000	16,000	非課税
(2) PBB 使用料	1,020	928	
(3) 施設使用料	2,200	2,000	
(4) テナント賃料	29,700	27,000	
(5) 広告収入	3,300	3,000	
4. その他収入	8,056	7,324	
収入合計	624,731	615,061	
5. 空港維持管理運営費	515,307	477,640	
(1) 人件費	100,941	100,941	不課税
(2) 維持管理費(灯火、消火救難、車両、修繕等)	324,425	294,932	
(うち航空灯火LED化補用品等購入整備費)	(22,926)	(20,842)	臨時的経費
(うち低層風情報提供システム維持管理費)	(4,378)	(3,980)	臨時的経費
(うち航空灯火受配電盤中央監視装置)	(30,525)	(27,750)	臨時的経費
(3) 光熱水費	17,035	15,487	
(うち滑走路等電気料金高騰対策費分)	(5,441)	(4,947)	臨時的経費
(4) 大規模修繕費	49,140	44,673	
(5) 除雪費	15,546	14,133	実績精算
(6) 事務費	2,393	2,176	
(7) その他	5,827	5,298	
6. 国際線ターミナル運営費等(中央部を含む)	107,174	98,549	
(1) 人件費	12,287	12,287	不課税
(2) 維持管理費(警備、点検、清掃等)	41,449	37,681	
(3) 光熱水費	42,096	38,270	
(うち滑走路等電気料金高騰対策費分)	(16,054)	(14,595)	臨時的経費
(4) その他	11,342	10,311	
7. 鳥取空港を拠点とした新たな事業	41,608	37,826	
支出合計	664,089	614,015	
消費税還付額	40,404		翌年度還付
運営収支	1,046	1,046	

(5) 維持管理費 内訳

	名 称	内 容	備 考
① 航 空 灯 火	航空照明、電気施設維持管理業務	航空灯火および電気設備一式の点検・整備等維持管理	外部委託
	各種継電器作動試験	保護継電器動作試験、絶縁抵抗測定、高圧部絶縁診断等	外部委託
	航空灯火・電力監視制御装置保守点検業務	航空灯火および電力設備監視制御装置の保守点検	外部委託
	無線設備保守点検業務	無線装置の保守点検	外部委託
	航空灯火LED化補用品等	航空灯火LED化に伴う補用品等の購入	外部委託
② 消 火 救 難	消防業務	航空機事故等の際の消火救難活動、それに備える待機等	外部委託
	制限区域内維持管理業務	制限区域内の薬剤散布、除草等	外部委託
	電源局舎、消防車庫機械警備業務	電源局舎、消防車庫の機械警備、警報機器の点検	外部委託
	化学消防車の保守点検・整備	化学消防車の長寿命化点検・整備、タイヤ交換等	外部委託
	消火救難訓練	消火救難訓練に係る大型バス借り上げ等	
	医療資機材整備	救急医療セット等の更新	
③ 車 両	各種車両の点検整備	滑走路点検車、摩擦係数測定車、バードパトロール車等の点検整備	外部委託
	除雪車両の点検整備	除雪トラック、スノースーパー、ロータリー除雪車、凍結防止剤散布車等の点検整備（ロータリー除雪車の長寿命化を含む）	外部委託
	各種車両の重量税	車検整備時に発生する重量税	
④ 修 繕 費 (基本施設およびその他土木施設)	警備業務	制限区域内の夜間警備	外部委託
	非常通報装置保守	事務所内の非常通報装置の点検	外部委託
	植栽等維持管理業務	ターミナル地区の植栽管理、清掃	外部委託
	場周柵、貯水槽バルブ修繕	老朽化した場周柵および貯水槽バルブの修繕	外部委託
	有害鳥獣駆除委託	航空機離発着の支障となる鳥獣の駆除	外部委託
	ハイジャック等防止対策業務補助	航空運送事業者が行う保安対策業務等に係る費用の補助	
	有色防除雪氷剤処理対策	有色防除雪氷剤の処理対策の必要性および具体的な対策検討	
	調整池溢水対策	豪雨時の水量分析と排水改善検討	外部委託
	路面性状調査業務	滑走路・エプロン路面性状調査、定期点検測量	外部委託
	着陸帯除草作業	着陸帯等の除草作業	外部委託
	消防水利施設点検業務	貯水槽、VP管、マンホール等の点検	外部委託
低層風情報提供システム点検業務	低層風情報提供システムの保守・分解整備	外部委託	

	進入灯橋定期点検	進入灯橋の定期点検	外部委託
	標識塗替え	劣化している標識の塗替え	外部委託
	ボックスカルバート定期点検	ボックスカルバートの定期点検	外部委託
	制限表面立木測量・伐採	制限表面立木の測量・伐採業務	外部委託
	その他小規模修繕 (250 万円以下)	突発的な修繕等に要する費用	
⑤その他(建築施設等)	屋内給水・給湯管、屋内給水管更新	屋内給水・給湯管、屋内給水管更新検討 (消防車庫事務所)	外部委託
	汚水中継ポンプ、雑排水ポンプ更新	汚水中継ポンプ、雑排水ポンプ更新検討 (国際会館)	外部委託
	その他小修繕 (250 万円以下)	突発的な修繕等に要する費用	

(6) 大規模修繕費実施計画 (当初計画) 内訳

名称	内容	備考
1. 航空灯火補用品購入 (LED 化補用品以外)	航空灯火消耗品の確保	外部委託
2. 進入灯橋脚維持管理計画検討業務	進入灯橋脚鋼管杭の応急的な対策と中長期的な対策の検討 (令和 5・6 年の 2 ヶ年契約)	外部委託
3. 進入灯橋脚応急処置工事	進入灯橋脚鋼管杭の応急補修	外部委託
4. 滑走路距離灯向枝線ケーブル取替工事	老朽化した滑走路距離灯ケーブルのうち、配線マンホールから各灯器間の枝線ケーブルおよび電線管の取替	外部委託
5. ハイポール塗裝修繕	駐車場ハイポールの塗装劣化修繕	外部委託
6. E 誘導路ほか路面詳細調査業務	E エプロン・誘導路の詳細調査	外部委託
7. 光ファイバー延長工事	10 場周南カメラ増設	外部委託
8. 各施設診断	LED 更新に際し灯柱など再利用できるか詳細調査	外部委託
9. 空港施設修繕工事	塩害により腐食した場周柵の取替、滑走路標識の塗装、場周道路・保安道路・G S E 車両通行帯等の舗装更新、滑走路 (過走帯、ターニングパッド)・エプロン切削オーバーレイ等の維持修繕工事ほか	外部委託
10. 航空灯火受配電盤中央監視装置更新	航空灯火受配電盤中央監視装置システム更新	外部委託
11. その他修繕費 (250 万円以上)	1 件 250 万円以上の大規模修繕 (除雪関連費用を除く)	外部委託

※鳥取空港維持管理・更新計画書 (長寿命化計画を含む) に基づき優先順位の高いものから実施します。

(7) 国際線ターミナル運営費 内訳

名 称		内 容	備 考
警 備 ・ 清 掃 等	警備業務（常駐、夜間警備）	ターミナル施設の点検、警備	外部委託
	清掃業務	ターミナル施設および電源局舎の清掃	外部委託
	ごみ収集業務	ターミナル内で発生するごみの収集	外部委託
	観葉植物交換業務	ターミナル内の観葉植物の交換	外部委託
	フロアマット交換業務	ターミナル施設出入口のフロアマット交換	外部委託
保 守 点 検	昇降機設備保守点検業務	エレベーター、エスカレーターの保守点検	外部委託
	冷温水発生機保守点検業務	冷温水発生機の保守点検	外部委託
	空調衛生機器保守点検業務	空調衛生機器の保守点検	外部委託
	搭乗橋設備保守点検業務	旅客搭乗橋（PBB）の保守点検	外部委託
	自動制御機器保守点検業務	中央監視設備等自動制御機器の保守点検	外部委託
	自動扉開閉装置保守点検業務	自動扉開閉装置（ターミナル自動ドア、空港東ゲート）の保守点検	外部委託
	自家発電装置保守点検業務	非常用自家発電装置の保守点検	外部委託
	地下油タンク保守点検業務	地下油タンクの法定定期点検	外部委託
	自家用工作物保安管理業務	自家用電気工作物の電気保安管理	外部委託
	持込手荷物、受託手荷物の X 線検査装置保守点検業務	持込手荷物、受託手荷物の X 線検査装置の保守点検	外部委託
	消防設備保守点検業務	消防設備（国際線ターミナルほか9棟）	外部委託
	X-RAY 検査機器点検業務	X-RAY 検査機器の日常点検	外部委託
	放送設備点検業務	ターミナル施設内の放送設備の点検	外部委託
	コンベア設備点検業務	ターミナル内のコンベア施設の点検	
ターミナル施設・設備自主点検業務	ターミナル施設・設備（空調・照明・給排水等）の自主的点検		

※（5）（6）（7）については、民間事業者の創意工夫・利点を活かした一体的かつ機動的な空港管理、運営を実施するとともに、効果的かつ効率的な執行を実施します。